

## I. 導入

おはようございます。今日も使徒言行録の学びを続けてきたいと思います。先週の学びでは、宗教指導者たちが使徒たちの働きをねたんで彼らを抑え、投獄しました。ところが、使徒たちが抑えられた夜、天使が彼らを牢から連れ出し、福音を続けて宣べ伝えるようにと語りました。**使徒 5:20**「行って神殿の境内に立ち、この命の言葉を残らず民衆に告げなさい」と言った。この箇所は、現代の私たちにも当てはまります。私たちも皆、「行って、立ち、イエスを信じる信仰をとおして恵みによって与えられる罪の赦しと永遠の命という良い知らせを人々に告げなさい」と命じられています。

次の朝、大祭司とサドカイ派の人々のもとに、使徒たちが牢におらず、神殿の境内で教えているという知らせが届きました。そのとき、彼らはまたも番兵を送って、使徒たちを抑えようとなりました。そこから今日の聖書箇所、使徒 5:27-42 です。

## II. 聖書朗読 使徒言行録 5:27-42 (新共同訳)

5:27 彼らが使徒たちを引いて来て最高法院の中に立たせると、大祭司が尋問した。 5:28 「あの名によって教えてはならないと、厳しく命じておいたではないか。それなのに、お前たちはエルサレム中に自分の教えを広め、あの男の血を流した責任を我々に負わせようとしている。」 5:29 ペトロとほかの使徒たちは答えた。「人間に従うよりも、神に従わなくてはなりません。 5:30 わたしたちの先祖の神は、あなたがたが木につけて殺したイエスを復活させられました。 5:31 神はイスラエルを悔い改めさせ、その罪を赦すために、この方を導き手とし、救い主として、御自分の右に上げられました。 5:32 わたしたちはこの事実の証人であり、また、神が御自分に従う人々にお与えになった聖霊も、このことを証ししておられます。」

5:33 これを聞いた者たちは激しく怒り、使徒たちを殺そうと考えた。 5:34 ところが、民衆全体から尊敬されている律法の教師で、ファリサイ派に属するガマリエルという人が、議場に立って、使徒たちをしばらく外に出すように命じ、 5:35 それから、議員たちにこう言った。「イスラエルの人たち、あの者たちの取り扱いは慎重にしてください。 5:36 以前にもテウダが、自分を何か偉い者のように言って立ち上がり、その数四百人くらいの男が彼に従ったことがあった。彼は殺され、従っていた者は皆散らされて、跡形もなくなった。 5:37 その後、住民登録の時、ガリラヤのユダが立ち上がり、民衆を率いて反乱を起こしたが、彼も滅び、つき従った者も皆、ちりぢりにさせられた。 5:38 そこで今、申し上げたい。あの者たちから手を引きなさい。ほうっておくがよい。あの計画や行動が人間から出たものなら、自滅するだろうし、 5:39 神から出たものであれば、彼らを滅ぼすことはできない。もしかしたら、諸君は神に逆らう者となるかもしれないのだ。」一同はこの意見に従い、

5:40 使徒たちを呼び入れて鞭で打ち、イエスの名によって話してはならないと命じたうえ、釈放した。 5:41 それで使徒たちは、イエスの名のために辱めを受けるほどの者にされたことを喜び、最高法院から出て行き、 5:42 毎日、神殿の境内や家々で絶えず教え、メシア・イエスについて福音を告げ知らせていた。

### III. 教え

ここで、この個所のペトロとガマリエルを比べてみましょう。ガマリエルは、みことばに精通した学者で、民衆からも尊敬されていました。最高法院がペトロと使徒たちを殺そうと考えたとき、ガマリエルが割って入り、使徒たちを釈放すべきだと論じました。ガマリエルは使徒たちを外に出し、議員たちに慎重な対処を求めました。あわれみを示したいというガマリエルの気持ちは本当だったでしょうが、政治の立ち回りもうまくやっています。最高法院が民衆の反感を買うような対処をするのを防ぎたかったのでしょうか。そうなれば、ローマ帝国の当局とぶつかることになるからです。

ガマリエルの発言は、賢明だと思われがちですが、実は政治によくある詭弁です。真理を知るとか神をたたえるとかいうことには的を絞った発言ではありません。ガマリエルは、神の道とその真理への忠誠心より、同胞と最高法院への忠誠心のほうが大きかったように見えます。ガマリエルの言葉をもう一度よく見てみましょう。彼の誤った考え方がわかると思います。使徒 5:35-37 「5:35 それから、議員たちにこう言った。「イスラエルの人たち、あの者たちの取り扱いは慎重にしなさい。 5:36 以前にもテウダが、自分を何か偉い者のように言って立ち上がり、その数四百人くらいの男が彼に従ったことがあった。彼は殺され、従っていた者は皆散らされて、跡形もなくなった。 5:37 その後、住民登録の時、ガリラヤのユダが立ち上がり、民衆を率いて反乱を起こしたが、彼も滅び、つき従った者も皆、ちりぢりにさせられた。」

ガマリエルの発言は、出だし好調でした。何か行動を起こす前に慎重に考えるようにと、最高法院に勧めています。それはよいアドバイスです。けれども、次に彼が言ったことは、テウダとガリラヤのユダについてでした。そうすることによって、この二人のような信用できない偽メシヤとイエスが同格だとほめかしています。これは大きな間違いです。これらの偽メシヤは、奇跡も起こさず、知恵のある教えも残しませんでした。ましてや死人をよみがえらせることなど決してありませんでした。現代も、多くの人が似たような過ちを犯します。その過ちとは、今までにいたさまざまな宗教の教祖とイエスを同類に見なそうとすることです。イエスは比類ない唯一無二のお方です。イエスをご自身を神だと言われました。奇跡や死からの復活、多くの預言の成就是、イエスの主張が真実であることの有力な根拠です。

ガマリエルは続けてこう言いました。使徒 5:38-39 「5:38 そこで今、申し上げたい。あの者たちから手を引きなさい。ほうっておくがよい。あの計画や行動が人間から出たものなら、自滅するだろうし、 5:39 神から出たものであれば、彼らを滅ぼすことはできない。もしかしたら、諸君は神に逆らう者となるかもしれないのだ。」ガマリエルは、神の働きを止めることはできないと言いましたが、そのとおりです。しかしここで問題なのは、ガマリエルの最高法院に対する助言が、使徒たちの様子を見て、働きがうまくいくかどうかで神から出たものかどうか判断しようというものだったことです。

なぜ問題かということ、真理かどうかを見定めるには、目に見える成功は正しい判断基準ではないからです。神のご計画と働きは、必ず最終的には勝利します。しかし、人間の一生という短期間では、神のなさることのほんの一部しか見られません。成功度合いで、神の働きか否かを判断することはできません。というのも、私たちには物事の最終的な結末がわからないからです。何を信じるか選択しなければならぬ場合は、とりあえずうまくいってそうなものという考え方はいけません。むしろ、いろんな根拠を考慮して、真理を捜し求める真摯な努力が必要です。この時点では、ガマリエルはペトロの主張する信仰の根拠に目を向ける様子はありません。どちらかということ、今ある問題に対する安易な対処法を求めているだけのようです。



教会史の伝承によると、ガマリエルは後にイエスを信じてクリスチャンになったそうです。カトリック教会は、ガマリエルを聖人として敬っています。しかし、使

徒 5 章に記されている頃は、ガマリエルはイエスの味方とも敵ともはつきりさせないどっちつかずの政治家で、道理に合わない論理で妥協策を主張しました。

ペトロの姿勢は、ガマリエルの妥協姿勢と対極にあります。ペトロは漁師で、学歴も社会的地位もありませんでした。しかし、イエスとともに過ごしたという経験がありました。また、イエスが捕えられた後にイエスを三度知らないと言う不面目な経験をし、後に、よみがえりのイエスによって使徒たちの指導者的立場へと復帰させていただきました。ですから、ペトロにもう妥協はありませんでした。最高法院に脅されても、ただこう答えました。**使徒 5:29b**「人間に従うよりも、神に従わなくてはなりません。」これこそ、イエスを知ることによって自由を得た人の言葉です。ペトロをはじめとする使徒たちは、もはや人の考えに左右されはしませんでした。彼らの最大の関心事は、神と御国に忠誠を尽くすことでした。



彼らは、最高法院の脅しに屈しないわけを単刀直入に答えましたが、それにとどまりませんでした。続けて、最高法院の議員たちに向かってイエスの福音を宣べ始めたのです。**使徒 5:30-32**「**5:30** わたしたちの先祖の神は、あなたがたが木につけて殺したイエスを復活させられました。**5:31** 神はイスラエルを悔い改めさせ、その罪を赦すために、この方を導き手とし、救い主として、御自分の右に上げられました。**5:32** わたしたちはこの事実の証人であり、また、神が御自分に従う人々にお与えになった聖霊も、このことを証ししておられます。」福音は、すべての国のすべての人のためのものです。しかしここでは、イスラエルの指導者たちに向かってイスラエルのための良き知らせを使徒たちは語っています。そこで強調しているのは、自分たちの目撃証言と聖霊の証です。また、最高法院の議員たちに赦しが必要であることを指摘しています。それは、彼らがイエスを裁き、十字架に送った張本人だからです。

自分の罪を指摘されて嬉しい人はいません。イエスを十字架につけたこと責任は最高法院の議員たちにあるという使徒たちの主張に、彼らは憤慨しました。けれども、それこそが彼らの大きな罪でした。実際には、私たちも同罪です。最高法院は、イエスの処刑に直接関わりましたが、私たちも無関係ではなく責任があります。イエスは私たちの罪のために死なれたからです。**1ヨハネ第一 2:1-2** を見てみましょう。「**2:1** わたしの子たちよ、これらのことを書くのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。たとえ罪を犯しても、御父のもとに弁護者、正しい方、イエス・キリストがおられます。**2:2** この方こそ、わたしたちの罪、いや、わたしたちの罪ばかりでなく、全世界の罪を償ういけにえです。」イエスは、全世界の罪のために死なれました。それは、一人ひとりの罪のために死なれたということです。私の罪のため、あなたの罪のためです。

メル・ギブソンは、映画「パッション」を監督した際、イエスが十字架につかれたのは自分のせいだということを表現しようとしてしました。それで、十字架刑のシーンで、自分自身が釘を持ったそうです。実際の映画にメル・ギブソンの顔は登場しません。イエスの手に打ち込まれる釘を持っている手だけが登場します。これは意味深長な描写です。イエスが十字架につけられたところに皆さんがいたとして、周りを見渡してもメル・ギブソンはそこにいないでしょう。私もそこにいないでしょう。けれども、霊的な意味で、私たちは皆そこにいたのです。メル・ギブソンのように、顔は隠れていても、その手はそこで釘を持っていたのです。私もイエスを殺すことに加担しているわけです。イエスが私の罪のために死んでくださったからです。私の罪がイエスを十字架につけました。イエスは十字架上で、私の罪を背負われ、私のために血を流されました。



最高法院の議員 70 人と同様に、私たちにもイエスを死に追いやった責任があります。にもかかわらず、私たちの主は恵みとあわれみをもって、私たちすべてに救いを無償で与えてくださいます。私たちは皆、罪を犯します。それが人類の墮落した今の状態であり、罪と死を免れる人は

一人もいません。だからこそ、私たちは福音に耳を傾ける必要があるのです。ローマ 5:8「しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。」イエスが来てくださったのは、罪の赦し、罪と死からの救い、そして神との和解を信じる者すべてに与えるためです。私たちは自分自身の罪のために死を宣告されるべき者ですが、その死刑をイエスが受けてくださったのです。私たちの身代わりとして死んでくださり、永遠の命という無償の賜物を私たちが受けられるようにしてくださいました。

私たちがイエスを信じる時、天地の創造主と和解させられ、天国の国籍をいただきます。フィリピ 3:20「しかし、わたしたちの本国は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、わたしたちは待っています。」イエスを信じてクリスチャンになると、新しい国籍がいただけるのです。それは、主の支配下に自分を置くからです。この世では、私たちは天国への帰国を待ち望む外国人であり寄留者です。主が来て、永遠に主のもとで過ごせる場所へ私たちを連れて行ってくださる日を心待ちにしています。

日本、アメリカ、フィリピンなど、どの国の国民であろうと、その国に対する忠誠心が求められます。外国にいるときでも、祖国の名や政府の評判に傷をつけるようなことはしてはいけません。しかし、クリスチャンである私たちにとって、最も忠誠を誓うべきは私たちの真の祖国、神の御国、天国に対してです。もちろんこの世の国での国籍も持っていますが、天国の国籍も得て、二重国籍を持つようになるのです。そして、天国への忠誠を尽くすことと、この世の祖国に忠誠を尽くすことに矛盾が出てきた場合には、天国への忠誠心が優先されなければなりません。この世の国籍は一時のものですが、天国は私たちの永遠の祖国だからです。

今日の聖書箇所、ペトロをはじめとする使徒たちはこのことをしっかり理解していたことがわかります。彼らは、イスラエルの最高権威である最高法院に連れて行かれました。しかし、最高法院の命令に従いませんでした。その理由は、彼らの言ったとおりです。**(使徒 5:29b)「人間に従うよりも、神に従わなくてはなりません。」**この世の権威者による要求と天国への忠誠心との間に矛盾が生じるなら、私たちも同じように答えなければなりません。「人間に従うよりも、神に従わなくてはなりません。」

使徒たちは、イエス・キリストに忠実に仕えました。天国に忠誠を尽くしました。主への揺るがぬ忠誠心と忠実な奉仕の中で、彼らは新たな喜びと意義を見出しました。最高法院の権威をもともしませんでした。そのことで彼らは非難され、鞭打たれましたが、この世の恥辱と痛みに対して、使徒たちはこのような反応を示しています。**使徒 5:41-42「5:41 それで使徒たちは、イエスの名のために辱めを受けるほどの者にされたことを喜び、最高法院から出て行き、5:42 毎日、神殿の境内や家々で絶えず教え、メシア・イエスについて福音を告げ知らせていた。」**使徒たちは、イエスの名のために迫害され苦しんだ後も、臆することはありませんでした。むしろ、喜びに満たされ、イエスがキリスト、救い主であり主なるお方であることを宣べ伝える情熱がさらに燃やされました。王の王、主の主であるお方、すべてを統べ治める創造主なる神、私たちのために死なれた主イエスへの忠誠心と忠実な奉仕は、喜びと天の報いをもたらしてくれます。

#### IV. 結び

この世には、責任を果たし忠誠を尽くすべき相手がたくさんあります。家族や友人、職場、祖国などさまざまですし、どれも大切です。けれども、私たちの永遠の国籍は天国にあります。ですから、何をおいても第一に神に忠誠を尽くす責任が私たちにはあります。神は天地を創造し、すべてのものに命をお与えになりました。神と無関係の人はひとりもいません。私たち自身が存在できること自体、神のおかげです。また、私たちが愛し、忠誠を尽くすに値するお方であることを、神は示してくださいました。イエス・キリストという人の姿で、神はこの世に来てくださり、ご自身の命を私たちのためにささげてくださいました。私たちのために死んでくださったのです。ですから、私たちがこのお方のために生きるべきです。主が勇気と知恵と力を与えてくださり、ペトロ

と使徒たちの模範に私たちも倣うことができますように。そして、天国に忠誠を尽くす忠実な国民になることができますように。

最後に、詩篇 145 篇をお読みしましょう。主は私たちの賛美と忠誠に値するお方です。ダビデのこの詩篇は、その根拠をたくさん思い起こさせてくれます。

詩篇 145:8-13、【賛美。ダビデの詩。

145:8 主は恵みに富み、憐れみ深く／忍耐強く、慈しみに満ちておられます。

145:9 主はすべてのものに恵みを与え／造られたすべてのものを憐れんでくださいます。

145:10 主よ、造られたものがすべて、あなたに感謝し／あなたの慈しみに生きる人があなたをたたえ

145:11 あなたの主権の栄光を告げ／力強い御業について語りますように。

145:12 その力強い御業と栄光を／主権の輝きを、人の子らに示しますように。

145:13 あなたの主権はとこしえの主権／あなたの統治は代々に。

では祈りましょう。

## V. 祈り

愛する主、創造主、すべての王なるお方よ、

あなたの聖なる御名をたたえます。あなたの恵みあわれみを感謝します。あなたの力と知恵は、人知をはるかに超えています。あなたの栄光はとこしえまで変わることがありません。あなたの愛は尽きることがなく完全な愛です。主なる全能の神よ、あなたの恵みあわれみを今日再び私たちに注いでください。私たちは罪人です。イエス・キリストの十字架をとおしてあなたが備えてくださった罪の赦しと救いを何よりも必要としています。キリストの血潮で私たちを洗い清めてください。あなたの聖霊で私たちを満たしてください。あなたの道に歩ませてください。いつもあなたとともに歩むことを教えてください。主よ、この驚くべき救いを感謝します。主よ、私たちをあなたの子として迎えてくださってありがとうございます。天の国籍を与えてくださってありがとうございます。私たちを、天の祖国に忠誠を尽くす国民としてください。私たちの王なるあなたに忠実でいられますように。主イエスへの忠誠を捨てることが決してありませんように。あなたの恵みと聖霊の導きによって、真理のうちを歩めますように。イエスの尊い御名によって祈ります。アーメン。